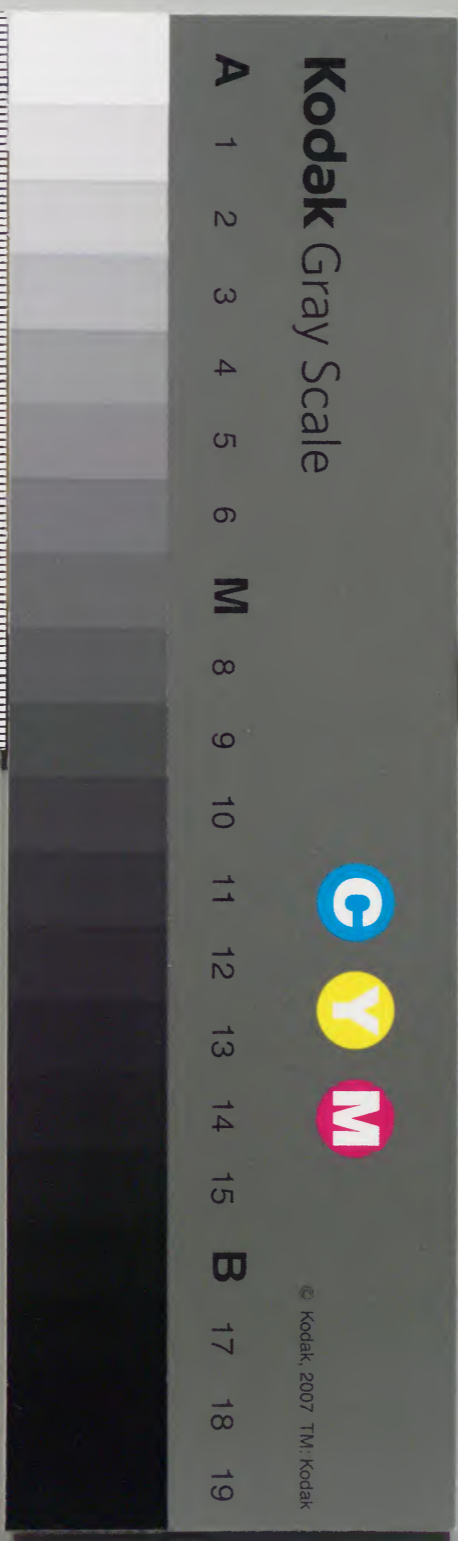


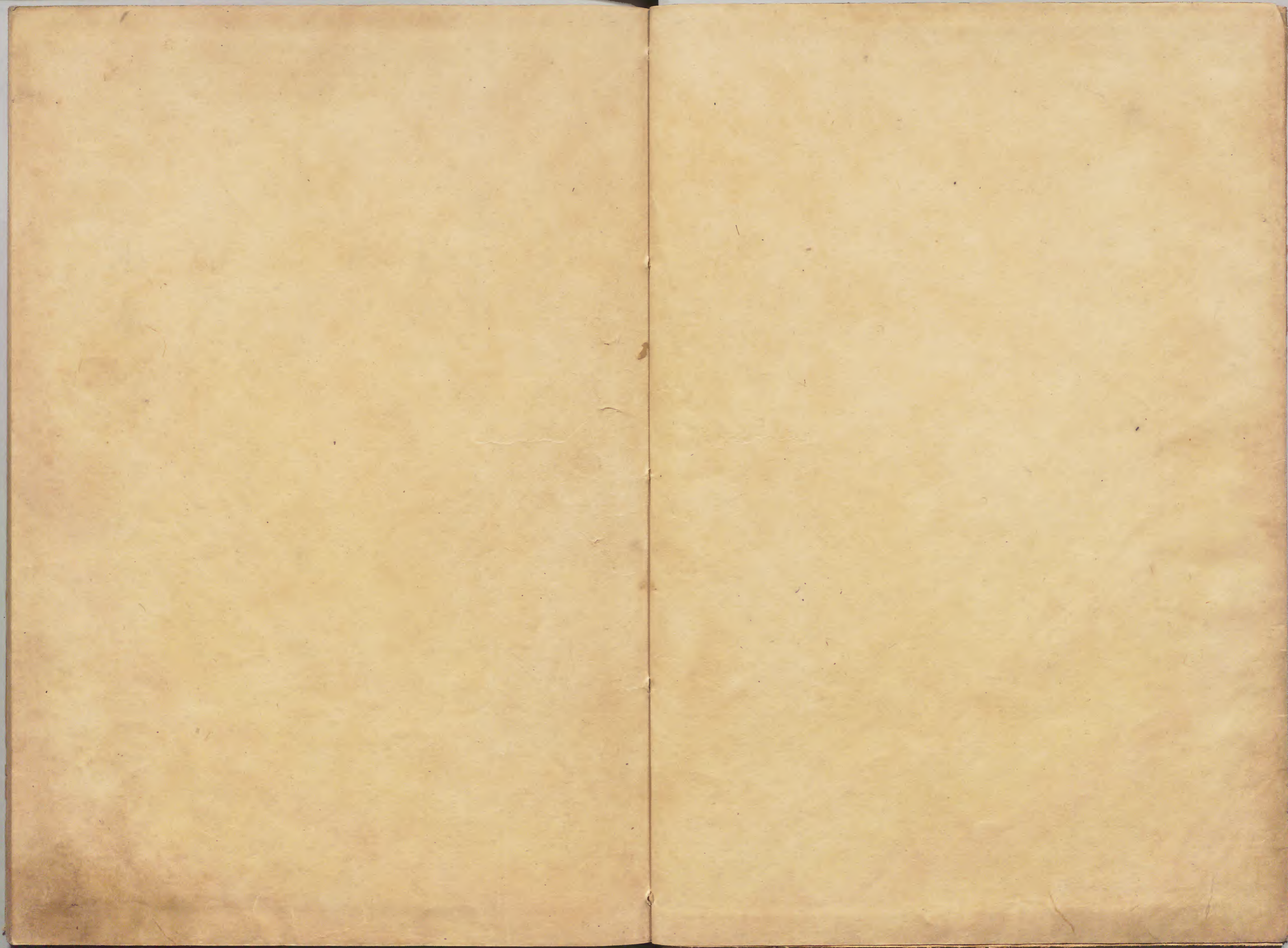
93

寛永諸家譜

藤原氏丙十冊之内七
秀郷流

| | | | |
|------|------------|-------|---|
| 内閣文庫 | | | |
| 番號 | 和 | 20199 | |
| 冊數 | 186 (93) | | |
| 函號 | 特 | 76 | 1 |





水谷

小川

寛永法家系圖傳

藤原氏

秀郷流

水谷

丙七小家

浅草文庫

家傳よりいへば奥列榎田の所
史ありて同出忠成の系若しうつり
位とありては総列法成の傳主嗣
子ありては榎田の子孫と
やまゝありては法成の

いありくみ六年と経ぬより法城
実子と傳へりて一より館法城
のより一より一様田として法城
や一も者派十二心伊佐三十三心と
ゆられり一より一旧号とありて
一より一者と稱し一三代法城と法城
とあると一代ありて一稱号
と法城物光の鎮守府將軍ある
秀卿の後流あり

今按じると一家傳り所謂様田を
姓氏とつとびりて一法城とあり
法城氏が頼子とありて一より一
これと秀卿流りのこと

伊勢

伊勢守 一より一帯列下館の城
伊勢 一より一帯列下館の城
帯列下館の城 一より一帯列下館の城
帯列下館の城 一より一帯列下館の城

兵とひきひの取なせめあつところあり
る處同必真壁郡下館一城郭と
うさう八田が群兵と物せく下館は城
領と八田領との境也

道通

兵部大輔

下館の城一領と

玉璽

伊勢守 下館の城一領と

下館と小田の城と比のあひさる事七
里のうしろの程をうしろありく海老
碓一とひく城郭とう海下館と
あひさる事一里とありさうとひく
一月の中一お我事敷な及あり
結城か小碓とひく八田か大碓城とひ
きりつけかく勝事と均あり玉璽
合仲二代乃君一八田か領内十二

河内国八郷村田八郷とせりし

合件

兵助大物

治持

伊勢守 治持全芳

結城友全各改勝ぐとき宇助まの城と
岩城信行の兵とをひく結城と

世にこのとき治持先よりありき

みく宇助まの猿山といふありき

いふにうらひ中材十二とせあり

て慶軍切ありこれいふ結城

と治持と十二と中材と雨

水

八田大軍と率く海老島

お結しりとき改勝真誓志と

毛のく東月若と挑我く勝利

と子と家督とつと西村徳猪
中村長江と徳と二十三歳より
法神と幡新と号と
下野必芳賀郡宇都宮の境久下
田と新地と海け港より
六十騎とひきひと遷住とと
宇都宮三百騎の勢とと
城と守と志思と新地とのい
ふ事二里ありと

桃蔵事十二年

宇都宮の家利権大丈外系を
又大根田郷八本恩材とせぬ

宇都宮より芳賀郡田野に城郭
とと(田野)刑動と命と
心と村と志男勝後ね
とと率とせぬと事

一日一札しつゝつかへ城と攻落敷
入百余人とらりとも其外乃雜兵
敷とくをこりゆへう田聖七村
とを攻とら

うのらり正村小田原甲州越後佐竹
の法抱おといやうと通とら

東照大権現とくさく多くとつり
往來の僧とくく言とくせめて
いゝゝ幕下の一度冥東う法かる

承祚ふともありとく意とら

かろいすゝと法滅晴物とくめて

湯先とくおとくべとくあり

大権現湯感斜とくしてかてけ

るゝと御書と給ふとらとら

あゝと敷度御と湯鷹と進とら

うのほ

大権現の作とくし織田信長(使

者とつゝいぬ

この勝物とていふは、業内者として
お強きこのとき、通信が所重なり
しり、永禄九年三月廿三日勝後
二十八歳ありて先陣とあり、城の
僧の意ありていひく、是れは我
切とぬさんづ、通信勝物あり、バク
こそと見く、嘆息とあり、是れは
いきり、里でく、こそ勝後殿と成
て、教多の歌、無と追、ぬ通信

勝物無と、いふは、敵無又、襲
き、て、勝後、いき、て、一、陸、と、あ、い
て、く、敵、と、う、つ、才、有、千、あり、通信
これと見く、いひく、このさび、通列
金地、ふ、子、騎、乃、肉、く、い、ひ、く、勝後
い、ひ、く、一、本、陸、と、あ、い、く
感、状、を、授、この、か、つ、勝物、が、服、あり
い、ひ、く、教、度、軍、切、と、あ、い、く、は
い、勝物、勝、後、が、代、この、功、と、記、と

法城乃氏神宮橋の社より納
正村が揚皆川山城守後照あまびみ
勝後あひとも一意とあしせま
右前と

大指現一々さまのひも石野
丹波身指治とらく病とりの大
脅六兵黄脅十指とを敏とこの
とこ

大指現沙威ま〜〜沙茶入あ〜びみ

得、皮乃面取織と〜〜沙茶入

い〜に〜ひ〜く〜色わりのら
敷得沙脅沙高芽と進とと

大指現甲列と雖と〜〜あ〜は〜ふとま
勝後石警持治と使者と〜〜水乳

の婆〜〜つ〜り

大指現〜〜敏と

大指現〜〜石警よ沙那と
あ〜〜あ〜ん〜〜て甲列とら

とき甲斐乃命人石野が客見と
あやし禁獄と事数月を然と
いともゆく

大権現乃御書
實乃水礼なりと陳とる以り
すぬろく事と切く物と並列
ししう魔下み湯しとる
所雨し系しり石野と相列
送しぬ終ふとの御書の何れと

急度皆述押去秋石野海西
糸極子及慈答と通お甲野
ら相押終極と種と名と列
は西一礼入物と石野依抄叙は
長純来り糸是今日是相列と送
忌別お下いそと来り終次ふり書
喜納と和ととと度法動産付白
勝彩らお果し山道海道平均と
年一とる極子と表とととお書

又去年申入りの大費納毛馬路
以下明らるけ表らるる上流の格
と所所黄紙納一にお合はるる
と共略いこと得る

二月廿八日家康御判

水谷伊勢守殿

追ふおとを評し承るるくくは是言
らるる上流の格に納合

このがの

又権現よりあるい甲冑ありは
涉小袖おと拜領と止勝後
うむまらるとあるの涉書三通これ
ありといへとも悉記し
及むこと

天正二年小條氏政結城晴邦宅
和年一氏政とて一長城
ひく小山一陣一小山外郎

と鳥の大河一陣とあり城中
とのぞく晴物一つけくいく
小山の城主秀繩ハ晴物と兄弟
外ハ馬と和陸とふとも肉は
まゝと秀繩と一味あり一移
まゝハ新造の曲輪とせむとあり
まゝと変一ありとあり
この少き晴物晴後とまゝと先
まゝの曲輪とせむやぬら晴後

まゝと一三九とせむりたのま
まゝと晴物とまゝと志げくわい
まゝと氏政歴と一はまゝとあり
まゝと速と一退陣とまゝとあり
まゝとゆゑ晴後との心とまゝと
まゝといきまゝと氏政の陣と
まゝとせむら氏政感收斜とまゝと
まゝと雨の太力と解くとまゝと
晴後とまゝと今とまゝと

あり

その後其臣秀吉を乃とす

大権現沙入洛ありこりとき勝後

信基とつとむ

孝女八年冥原沙陣の時

大権現の作よりゆり皆川廣照

ありびり勝後野外沼掛り

陣よりこれ信行義宣成とこ

つんがらありとくみ冥原後落

ののり義宣降よりよりて勝後

退陣とす

同九年勝後江戸ありし時

台座院殿松若り酒造り給ふ

しんくし葉と鉄と

同十一年六月三日一死と葉字

又法衣令虎

勝隆

伊勢守 京師三條より

長久保入年冥辰沙陣乃

勝後八雲東より

して洛陽ありこのとき石田

法政少備三成勝隆と

乳母襤履して

白山崎色一の

小野本縫殿助川勝徳は
道とさうつんがめ彼地よ来と
きた乳母又中より山さきへ
山崎の屋のうらま小舟あり
のり八幡の松坊よりきこる
又崎津が家人より来侍り
凡そさうして東山の
遊勝殿跡山の函あり
乳母泣きくいてこれあり

権子あり君久しくの父と志あり
めさる神がしきい子か命とたと
けさる(とあり)このときを清原
憐慈——二十日乃る小風呂の中
けいさく(とあり)いぬ其後冥界の
凶賊お敗れしとありし勝隆
すめらりす(とあり)
同六年冥東(とあり)しき靖徳
か新比の城(とあり)飛と

同九年

台座院殿勝後が新比(とあり) 渡川の

とさるあ福(とあり)しん(とあり)中多
住渡守正信久保相模守大隣勝隆
いさ(とあり)却少あり志(とあり)つ(とあり)

と(とあり)これ(とあり)り(とあり)あ(とあり)る
し(とあり)志(とあり)さ(とあり)る(とあり)ぬ

同十一の勝後死(とあり)ら(とあり)勝隆十
家(とあり)し(とあり)家督(とあり)つ(とあり)き(とあり)

勝隆港より馬より下んせ
しり所より鶴見といふ者これと
あふりりくるといひて射
陣と教共さといふ来といふも
勝隆つわりの馬陽と志りてを

同三年月日年

台徳院殿沙入洛のとき内蔵左衛門
延一属一々信守とつとむ

同九年

將軍家沙入洛のとき勝隆松平
式部大輔延一属一々信守
とつとむ

寛永三年沙入洛のとき

台徳院殿の教命より柳又坂の
番とつとむ

同十一年

將軍家沙入洛の節作とつとむ
江戸沙城の番とつとむ

先祖より常列古磬那野列芳賀
 那よりとひく三万千石鑑と銘と
 又古磬の月下銀ありひり芳賀
 那の中端新鉄新
 ととりの久下田と銘と都合四万七
 千石餘ありこの事と
 名徳院殿乃高徳一建一寛永七
 年より銘地の敷ととひく二役と
 にとむ

同十六年六月八日旧銘とありと
 りく備中赤川と成好の城とたり
 りりく三万石と銘ととひく
 播列三本ととひく一萬七千石
 搦取八万石あり

勝宗

赤右衛門

家紋

三ツ巴しんぱの分ぶん初はつ

法城ほふじやうの紋もんなり

● 三保

三保

小川

長前守

長前守尉と号す

生島尾張

織田伊勢守信安より

天正元年十二月九日死に歳七十

九 法名 夢心

正名

伯耆守 生田月家

織田信安よりつるく旗本より
うのら織田信長より一属一足将
二百人とのあけら又信長の命
より信雄より一属と

享長十二年二月九日一死に案
八十一 法名父云

長正 ながし

久世勘助 生田月家

信長より一人侍の多と多
伊勢のあ司を教信雄と頼て子と
あ督とつるく一属と一乃水守
長正信雄が家長とつる

長正信雄乃命より織田掃部
討と掃部助の男加者法助長正の徳と

い川にけしきみきつるふかち正のいし
ひく者ししとせしとらとら又命
くくくく久河内式致大猶と殊しぬ
天正四年勝河内河内城を至美祿の
某行雄しし叛ししとくきつり
これとせししとくき正城とらとら
志すのめしと首級と増す事あつた
なり少也保も升野尾家女と討く
うの首とゆら

同七年行雄行賀正と征伐せし
とくし勝川三郎義雄利ありし
ち正正見山口の軍おとあり長正
或日小竹なる先が守りとあり城と
うこみ火と致くしとくしとくしと
やきしとくしとくしとくしとくしと
二九のこちありとのらみ見山と
いこしとくしとくしとくしとくしと
み六百しとくしとくしとくしとくしと

長正が考よりこじろめとひて長正
命と短トく桃残たる先が子小竹
十郎とらりぬるのち下山
甲斐守澁川と郎三郎と物己
陣へいさいせしとくみ彼とらえ
とここれとらりて二所を遣使と
長正が考よりとらりて
長正保と免く一歩長保と一人
相欠一下山陣へいさいせしと

極とらりてとらりて下山ありて
汗容せしとらりてとらりて長正保
あいのとらりて進号とらりて
人質とらりて長正が陣みいありて
下山の軍兵とらりてとらりて
とらりてとらりてとらりて
澁川とらりてとらりてとらりて
信雄の命とらりてとらりてとらりて
伊勢とらりてとらりてとらりて

う海人三郎三清あ〜びよ忠西として
と進し海り〜じうのら信忠侯列
と征伐〜く〜りのあ信忠の極
中よ呻〜ぬ下山の松契碇は獄中
こつお〜死と

同十年二月廿八日忠正死と案二十
八法名東心

長保

新九郎 生ふ日あ

實ハ忠正の弟あり信雄〜は久
兄忠正の弟也〜

天正十年の智日向忠光秀信忠と
穢し〜し〜安土のあ忠正の弟生
た案大楠堅秀俊忠と信雄〜つと
とまや〜と〜桑始〜ん〜

信雄のいふまじも保立方表三郎とて
信雄のいふまじも保立方表三郎とて
信雄のいふまじも保立方表三郎とて
信雄のいふまじも保立方表三郎とて
信雄のいふまじも保立方表三郎とて
信雄のいふまじも保立方表三郎とて
信雄のいふまじも保立方表三郎とて
信雄のいふまじも保立方表三郎とて
信雄のいふまじも保立方表三郎とて
信雄のいふまじも保立方表三郎とて

六月八日信保日誓乃先水
六月八日信保日誓乃先水
六月八日信保日誓乃先水
六月八日信保日誓乃先水
六月八日信保日誓乃先水
六月八日信保日誓乃先水
六月八日信保日誓乃先水
六月八日信保日誓乃先水
六月八日信保日誓乃先水
六月八日信保日誓乃先水

いしこれと変じらるときは法軍の
うらふふらとて時別を又極く
多とまみやうか安土へ移しじくはと
あり長洋やじ事とゆらてあふ
いこれとわんのとて城よりちと
近年はとてくく選去
同年六月信利は信長に信雄族下の
共的智か道心と安土のく北の城と
すく城別相賀崎よりあつたこの

少きくしとひく近前征代とてか
とてあのふちの沙堂ふ城より
みくもへ信雄もかてて想く日々
七月軍兵と相原勝聖城よりて
勝川三高と相原秋山とを軍將とて
数日の後秋山勝川が勝とてひね長保
信雄乃命と受けとるり尾別信利
ありとて小栢系よりとせしひこれと
せむとてくく六月六日の夜よとて

て由吉長保が陣小死入長保が共命と
すくいぞ見うふところとき長保
武信と銘しわすは武信長保が腕と
つくとしども長保武信が胸板とつ
くこれと討捕長保が家人と又林某
とふ者とのいぬいぬ共討死と
林某は城中一方の軍抱ありあのみ
敵兵利とくあひひきききりきくは
ゆき信雄威知とさづく

同年九月伊川^{いかわ}又田城^{またのしろ}とせしむるとき
長保大よしりひくせあそく
とくく二九と系入とあり
本田六太夫^{ほんだろくたふ}多屋基^{たやせ}基^せと名湯^{なとう}と
いつきげと見きくろ長保も海と
とくく甚^しとあひま
とく^{とく}とく^{とく}とく^{とく}とく^{とく}
敵兵大勢^{てきへい}ききいさるる
あ方^{あほう}つわい勝^{かつ}よりさきとあひ

とてくへく引退んとせらるべきに教
無勝りあはれとせらるべきに保
りり言ふとせらるべきに保
三度ありとせらるべきに保
とせらるべきに保
本造りあつたはりとせらるべきに保
の三人永田の城とせらるべきに保
共毎朝とせらるべきに保
勝川とせらるべきに保

とせらるべきに保
志む結とせらるべきに保
日寛竟の結とせらるべきに保
あつとせらるべきに保
とせらるべきに保
保教共とせらるべきに保
とせらるべきに保
とせらるべきに保
のり教又とせらるべきに保

同年十月伊賀兵鶴の衆とせしむるとき
泷尻平左衛門あまびい一長保一方の軍
將とある甲しむとせしむ部外くわいの擧あり
河内路くわいしむらさぐとくくを火を
しかりて引退さる敵兵られし
なふ長保へ一あしせちゆう部ちゆう助ちゆうと
池とあせしむこれと道ちゆうと
同年十一月信雄尾列びりの兵とく
伊賀兵あむら乃城とせりしときは川

玄蕃助とくし軍將とすすめ
軍の目とあひさしりしとあり
信雄しんゆう五方ごほうと使しとくし
敵目の後と海うみあつこの軍兵
やくに尾列びりの兵とせしむ
しむらさぐとくくを火を
田丸中務たわらなかつむあまびい一長保ちゆう殿たかあまびい
あ河井あがひのあ高橋たかしむらさぐとくく
信助しんすけとくしとくく後ちゆうよりしむらさぐ

久しう遠方より勝事と均す
これあり又日足八島の城とせしむ
教兵暫時もさうゆすあさきして
城とささく坂内より川邊又藤山
の城よりひふとあさきあ保太
又ヶ川と魚とささくあひぬせ
長保高とささく川と海とささく
大新法とささく長保とつくまの池
あさきして馬の首とつくま長保

かの城とささく馬よりあり
大新とつんとささく大新藤山
の城よりあげりぬ長保と
くすあさきしてささく教兵鉄炮
とささくこれとぬせく長保
とあさき山中より火とささく
これよりあり教のい支事あさ
けとささく川邊のいさ
り長保城よりありその形勢見え

く使と云蕃がもくに能くいそ
鼻とやゆりーのち教度乃台我
味方利とゆごとし又事あり
宇部西院ヶ楮孫藤山の味み
ありはんやのーの地り来り
一とありとくく元日の甲の
別よ言蕃来りーいひけりこの
城の軍將のこともらとこるの場と
又おがくー我軍とくー

利とくーあふー長保がいそ
あらの場とんりーとくー
二三百人あはをぎー時日と
うつさばス河内三保園の教無ぬこ
あひさるありあふはーあはそ
やーせじふーとくーとあり
うーといくわいとくに業と
あもせ言蕃の西乃方ーじふい
長保の大子ーじふこれ水と

敵兵ありと波取共ありて保すに
これなきとさうんとさうやあり
敵兵傍よりと見えきてありてあり
さうと保すところ 敵とあつた
つとも大い敵と討てけおみあり
多しとさうとのら藤山とせあり
のりとき日並添ふ船法とありて
坂中より見えきてさうと保す
さう見えよりあづいり 船場とせ

あつた日並と保すありて船と
ゆりところと敵兵これとたすけ
さういきてありと船といつとつ
さう日並ハ城中とさうと死ぬ
一日敵度の台我されし味方と
つれ割とさうゆりとの敵多あり
これとさうと保すありと船
勝とさうとつとも敵兵とさ
さうとさうと又これとせこの

やまき マシキ 本多 ホンダ ねち ネチ 忠 チウ の ノ 絶 ツツ と ト ひつ ヒツ と ト げ
す ス 見え ミエ ころ コロ 長保 チカホ 坂 サカ と ト あ ア の ノ ま マ ー
り リ 絶 ツツ と ト あ ア も モ せ セ ころ コロ くれ クレ と ト 突 ツク ち チ ぬ ヌ
ふ フ ころ コロ へ ヘ ころ コロ 城 シロ 中 ナカ ぬ ヌ あり アリ と ト せ セ ころ コロ
死 シ と ト あ ア の ノ 火 ヒ 入り イリ 味 アジ 方 カタ と ト せ セ ころ コロ
二 ニ 九 ク 一 イチ せ セ ころ コロ 入 イリ ころ コロ せ セ ころ コロ 長保 チカホ 之 ノ 秀 ヒデ
城 シロ 戸 ド へ ヘ ころ コロ あ ア の ノ 火 ヒ 入り イリ ころ コロ せ セ ころ コロ と
と ト 長保 チカホ 名 ナ 湯 ユ ころ コロ い イ ころ コロ 殿 テン の ノ 戦 セ 場 バ
ろ ロ と ト ひ ヒ ころ コロ あ ア の ノ 火 ヒ 入り イリ ころ コロ せ セ ころ コロ ぬ ヌ かり カリ

絶 ツツ と ト ひ ヒ ころ コロ い イ ころ コロ せ セ ころ コロ ぬ ヌ かり カリ
い イ ころ コロ せ セ ころ コロ ぬ ヌ かり カリ 此 コノ 事 コト さい サイ ぬ ヌ かり カリ
と ト せ セ ころ コロ ぬ ヌ かり カリ ころ コロ せ セ ころ コロ ぬ ヌ かり カリ
を オ ころ コロ せ セ ころ コロ ぬ ヌ かり カリ 相 アイ 去 キ ころ コロ 剣 ケン 前 マエ
物 モノ ころ コロ せ セ ころ コロ ぬ ヌ かり カリ 長保 チカホ 之 ノ 所 トコロ 垣 ケ す ス ぬ ヌ かり カリ
彼 カノ ころ コロ せ セ ころ コロ ぬ ヌ かり カリ ころ コロ せ セ ころ コロ ぬ ヌ かり カリ
城 シロ 中 ナカ ころ コロ せ セ ころ コロ ぬ ヌ かり カリ 入 イリ ころ コロ せ セ ころ コロ ぬ ヌ かり カリ
と ト 追 オ ころ コロ せ セ ころ コロ ぬ ヌ かり カリ 入 イリ ころ コロ せ セ ころ コロ ぬ ヌ かり カリ
本 ホン 城 シロ の ノ 火 ヒ 入り イリ ころ コロ せ セ ころ コロ ぬ ヌ かり カリ 長保 チカホ 之 ノ

うにひくくも保徳軍といひて
松原清一入侍信雄られき
威平とてつくと八月八日信雄保徳
表忠忠の太田源内のお使きびり
書とて多しりくも保徳がゆら
りしとてあぐさあふ
日十二年の表信雄が家臣清河玄蕃助
畠田長門守俊井田玄丸送心わら信雄
いそふいそふ

東照大権現

大権現のこころく我鷹揚り
し三月三日乙卯辰長よお
はとさ信雄の三士と湯と
あつちあつちいあ別清例よ入
れと守へしとかり信雄とてふ
あとのし三月六日乙未と湯列
長崎乃城しといふつとこれ
流しぬらにとりく

又権現の兵はあつるが飛石星崎の城より
ひらひ森久の山に田文丸が所屋須賀
の城よりひらひ勝川之節若菜本造
左衛門佐あつるが長保の金蕃亮が
城松賀崎よりひらひとさ経雄才
しと保より経ふられ忠節とぬえ
はなきものひひありと保とさつり
松賀崎よりひらひ城の後つよし
とき敵外曲崎よりちとさつり又

橋とやんととと保これと見くさ
やうすんくこれとせ跡と通て
二丸の理色よりひらひとさ節が守
と焼りの地とさつりこれとさ後
つのを海とさつりこれとさあり
城中の兵二三百人といふ長保が
兵とせむくこれとさつり
と敵又城中といふとさつりこれ
しつりの敵城つとさつり河く

おぼゆるうへにむくも保法
とくくこのとくあり守り
自勝門本遠お陣入りあぐい
く松聖の形勢とせうみたる
迷りせりよあぐいあぐい
あせむくくくくくくくくく
名保る身とや志ありあぐい
と見えあぐい人質とせん
とこのとくも保るくくく

来と教るくくく城入り
のり教るくくく降新ぬ
とくく信雄又威状とく
日十九年信雄孫入り
のりも保海陽り
秀吉お田徳若院留田を
伴あり先年武衛見祐と
いれくあ命ありときも保
とくくく罪くくく重く

く津せし侍へ〜とあり也保す
てい〜我信雄〜つ〜忠士
の名ありあんう信雄〜送心
〜秀吉〜志〜んや汝おる
函郡〜あ〜も自君〜射
〜うしを事あ〜んや明津殿
の事い〜ら〜つ〜たを
こ〜い〜い〜ら〜た
〜とあり也保がい〜可なりこれ

手面目ありたをい〜これと礫
〜せだあんの面目あ〜んや也保
こ〜い〜秀吉我と礫
せ〜あ〜の死〜
れ〜あ〜も
い〜我面目何〜
〜んや漣長院す〜
たを〜射〜也保がのまじとあ
〜め〜あ〜

お共し人里きんとと付とまは保
又いしく果このもろあはりの物さ
あひ秀吉乃命と付べきなり陸吾院
これとさきとありとほらうとひく
あ使とさきとありとほらうとひく
秀吉これとさきとありとほらうとひく
いんとあふ二人射くいしく我あふ
長保が理りし所しくいふとさきとあり
あうさうありあをさるこれとさきとあり

あ人射くいしく今彼言察とさきとあり
これ義古ありとさきとあり
かつとさきとありと冊はあ小念り
いひく三百五十石の番地とさきとあり
のら命ありとさきとあり
せしじ陸吾院ありとさきとあり
うけとさきとあり
く旗大物とさきとあり
文禄元年の御陣のとき秀吉あ

あさぐひく肥別名護屋より
あつとさき秀林も保とよびく
秀吉汝が旗とあつと脚とんをの
しるもみみ登乃こりあはれ
我眉目ありも保命とすくはれ
旗とあつと秀吉の沙流み保
秀吉前田秀の権佐とよびくも保と
よびくのとあつと今日形勢
すともありしあつと今日
すともありしあつと今日

いし一乃とよびく
自持とよびく勝るあつと
六十枚とあつと保お謝し
せんともありとよびく
又目若しあつと保
神ありの保とあつと
保屋ハあつとあつと
人これとあつと
保とあつと

とありりありと退去と

地のしらも保山に言蕃先と不和の

ことありりありと秀林よつげ

く辞去秀をられとすく酒居院

あひりり富田をりり命とく

技持とくすくはは洛陽り飛とる

とく

大権現の凡集人西と清つといとて

幕下りり厨りありありとあり

作とありありも保秀春の技持せと

りりありありと辞しあり

大権現のありあり作ありりのありり

も一他ありりりりりありあり

ありあり我りり厨せよとありり

こありありりり命りりありり

大権現の魔下りり木曾清三郎と

者沙勘氣りりありりありり富田

ありりありり

大権現乃ゆあり作ト本曾母然

いあ〜つとあよ修よ〜

汝も保も四蔵ありも〜長保〜

我魔ト〜〜〜し〜

本曾が事ゆ室也あり〜

〜〜〜秀名の技持せ〜

〜とち子も又と〜

大権現乃の〜〜長保我り〜

〜と〜ハ本曾が罷も又ゆ〜

〜り〜れ〜〜〜長保〜

〜〜〜あ〜我

大権現〜〜〜え〜

汝〜〜幕下〜

〜の〜命〜あり〜

〜い〜〜〜や〜長保〜

〜我〜〜秀名技持〜

〜汝〜〜ひ〜〜院〜

〜あり〜〜何〜世〜

と見づ言と一多くは
長保退かのは本多三浦正重書
とありいあう長保言と
一ちらしき珠り
くつふ正重も又は勇れ志
和取はらものありと
同九年一り

將軍家
お守勝隆が継りくありて
松平

大津番とつとむ

寛永元年三月廿日 教令と

つゆり津秩炮頭とあり是時
人とのつり止采地とく人始

同九年七月 作りありく力

入騎とあがり

同十年二月 食邑とく人あり

りり長く千石百石とあり

安春

右大臣 生西尾法

享和六年

台漣院殿 御備 多々

旧十九年大坂陣のとき公井

利勝 告 奈高の段 某と云

昔と大坂城中 入れ秘計と

と云々

元和元年大坂五陣のとき有二
級と均しりり

將軍家の教令 ありと大坂番の

従功とあり

寛永九年六月八日死に享年一

法名淨徳

忠保

猪谷の尉 生西茂秀

忠保ヤ 子と云々 安春の

子あり

寛永八年

將軍家よりつる多し

安則

龜助

生目

寛永元年

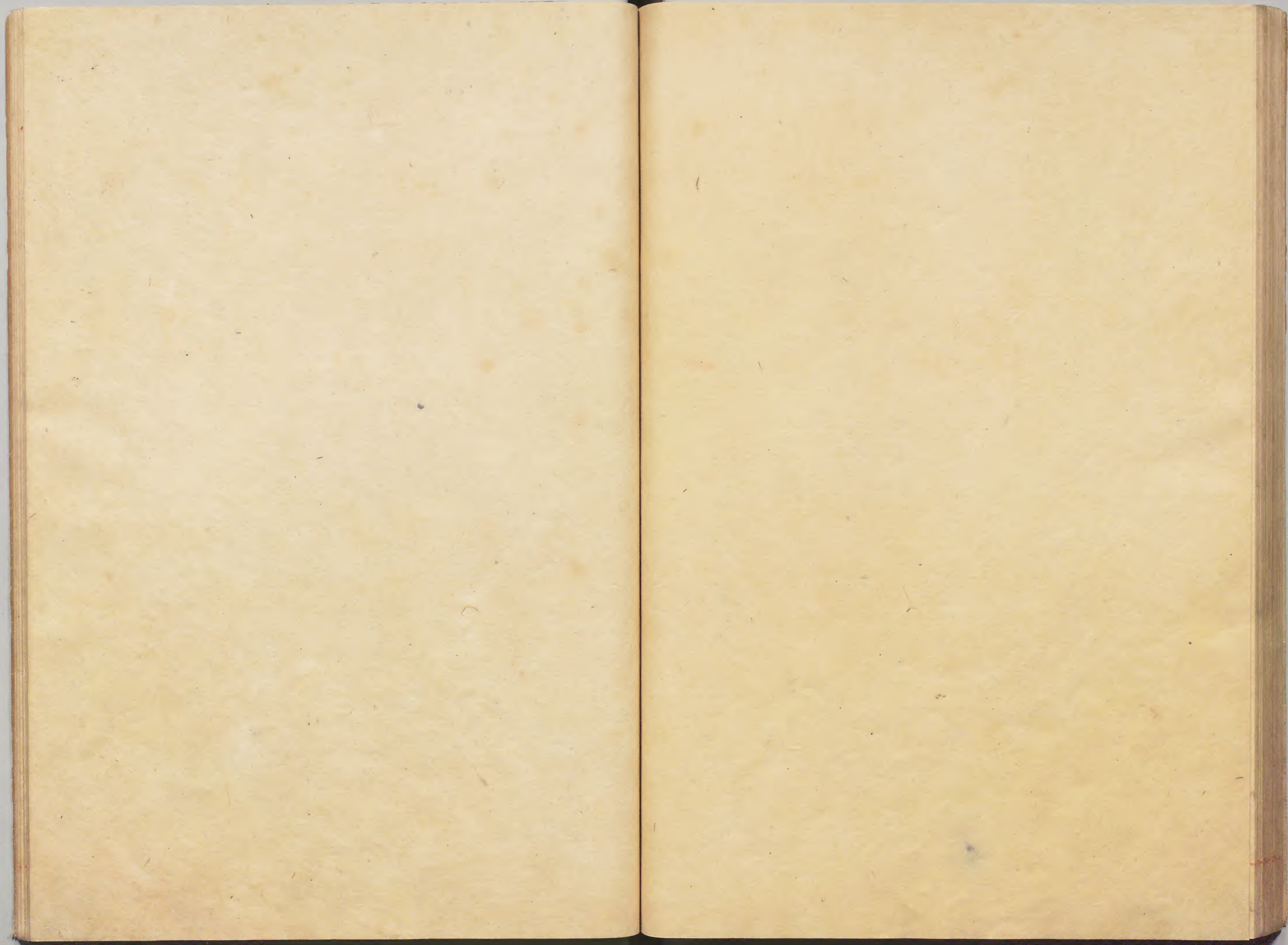
將軍家より孫湯一あり

日合年より大御番より

家改

菊

法深



● 宇次

小川

本ハ天野氏より改名がせきり
いふはく小川と稱すと

天野清兵衛村 生田三河

東照大権現

台座院殿

大體現涉澤ノ字とくさりし三列
一とくさりし領地とくさりし涉切米
おと拜賜とくさりし米之列
とくさりし涉善信とくさりし那奉納と
くさりし涉家充とおくさりし涉澤宅の
禱とくさりし米とくさりし米の涉陣
敷度

大體現とくさりし米とくさりし米とくさりし米
とくさりし米とくさりし米とくさりし米
とくさりし米とくさりし米とくさりし米

或々其の見の若とくさりし或ハ教とくさりし
とくさりし我首級とくさりしゆかすとくさりし許多を
とくさりし体地とくさりし地ノ目とくさりしとくさりし
とくさりし侯松とくさりし八松とくさりしとくさりし西善信
とくさりし米切とくさりし米入りとくさりし米百石ノ領地とくさりし
とくさりしとくさりし後河江とくさりしとくさりしとくさりし
とくさりし涉善信とくさりし米切とくさりし米九石九流
とくさりし傳家屋ノ地とくさりしとくさりし町割ふ
とくさりし作とくさりしとくさりし町丸基十郎山

常刀と稱するはくられしは
このとて下流ありしはく
もす、昭徳子石とくはる
りり止る力十人足惟二十五人と
ありしは
孝名元年ありしはく
はくあり

河合年十二月廿四日六十七歳
はくあり 法名性安

某

三十郎

大権現 子傳と

元龜元年江列婦

とくはく戦死し時、歳十八

某

傳九郎

大権現 子傳と

元龜三年を列ニまが原リ
とひく教とねとてい首二級
得たりこりとも

大権現のこりく傳九郎ケ
御制礼乃ニ字と書と
ありその日つかり戦場は
十九歳少して討死とるの
又家次二子がめめ精舎と建立
しと常仙と号と

大権現られときうり
と願と後今三列あり

次在

水之助のら清助とあはじ

家次が二子討死とつり
三五元年家次が糖子とある討
七歳実ハ野と所と政次子
かり

あるは元年又家次討死とあり

幼くして父を失ひて泣き
かた

寛永十三年八月廿九日六十一
歳にして死す

政勝

宇野茂光侍尉

天正十八年十歳のとき一家次が

頼子とあり父の宇野政次が子あり

兄次右天野と稱しつらふ

政勝本氏とありて宇野と

号して宇野の源氏なり相承りて

幕の終ると政勝は元宇野

又高島正重 廣忠郷とあり

人権現とありて宇野の源

台戦とありて宇野の源

自叙とあり

天正十一年百三歳にして死す

法名道心

冥父政次ハ

大権現

台徳院殿
一揆蜂起のとき

大権現の清るれ傍としかれ
これと廢員一と多し止端あり
享和七年三月十九日六十一歳
あて死とのらうのみことしく
死一魔ト一といく守野坐

称しらのあはせり
絶り政次が
才三十高政林

大権現
系一とひく首級と均あり日
政林も又二十七歳あり付死を
つぎ女子二人ありと姉は三列
河知和とひく地と下
終ふとありと眼とあり
一とありと嫁とありと

天三十八年二十一年歳少く死す

政者

百人 生み成務

母乃氏とつて小川と号す

安永十九年榮勝院政者と

大権現とて満ちえ多くとつて志ん

とつて号す

大権現はりし河井雅永以忠世喜山

伯耆守右後命

右徳院殿とて達也

右徳院殿此乃とつて政者母表

將軍家とつて政者也又

右軍家よ湯見せしむべし

とつて忠世右後先容

とつて

右徳院殿とて拜礼し

將軍 ありて 三月 日 行

元和六年 涉 勘 氣 とも あり

日八年 ありて くれ 武 列 行 也

渡 法 乃 とき 志 ごと ぐい せ 遷 法 の

のり 命 ありて 涉 小 性 能 入

日九年 又 涉 勘 氣 とも あり 始 ら

寛永 六年 母 然 とも あり 涉

小 性 能 あり 列 也

日八年 涉 切 来 とも あり 始 ら

日十年 常 陸 函 麻 崎 行 とも あり
糸 地 とも あり

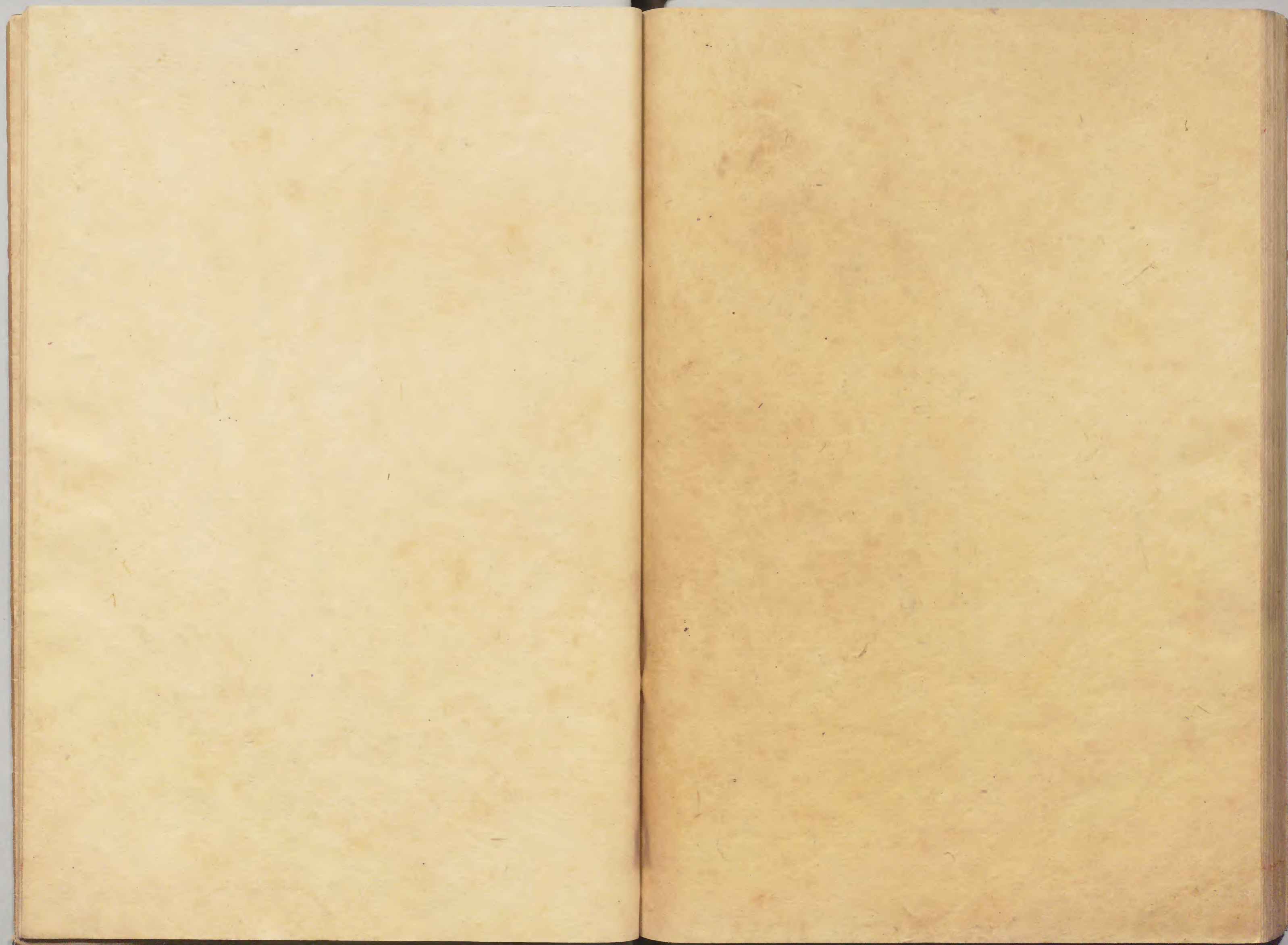
日十一年

將軍 家 涉 とも あり 乃 信 守 とも あり

日十七日 日光 涉 結 糸 乃 信 守 とも あり

つとじ

幕 後 三 枚 乃 松 三 日 月 三 星



小川

● 三信

三信

其^元右衛門尉

生^元必^元子^元江

享^元長^元十^元六^元年^元駿^元府^元下^元と^元ひ

東^元照^元大^元権^元現^元と^元拜^元一^元多^元く^元く^元く^元

う^元の^元ら

右^元徳^元院^元殿

將軍家

正長 まさなが

教皇 きょうわう

生田 なまの

寛永十年

將軍家

家紋

二川 ふたがわ

小川

● 氏綱 うぢのつな

又在為尉

生函 なまはら 江

は名透 ななとほ 冥

其年十五 駿府 しんぶ

し し ころれ

東照大権現と 辨礼 しんれい とそのら

台徳院殿

將軍家よりつゝ久めて

氏行 うりゆき

九在志の尉

務別 むりべ

寛永九年

將軍家よりつゝ久めて

家改

本所 ほんじょ

